

(品目別需給編)

1 小麦

(1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2021/22 年度

生産量 前年度比 前月比

- ・トルコ等で下方修正も、EU、ロシア等で上方修正され、前月から上方修正された、史上最高の見込み。

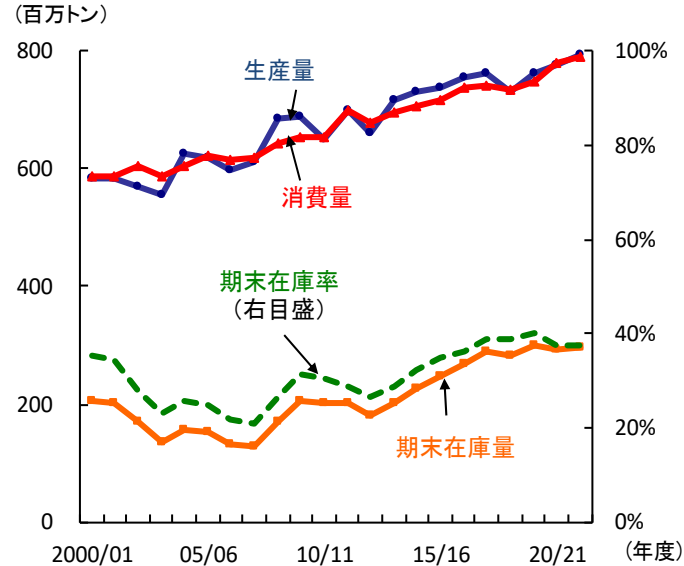
消費量 前年度比 前月比

- ・EU、ロシア等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

- ・ウクライナ、インド等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み

期末在庫量 前年度比 前月比



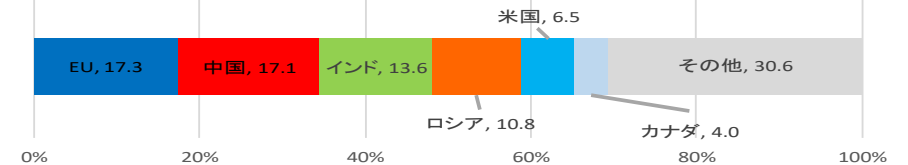
◎世界の小麦需給

（単位：百万トン）

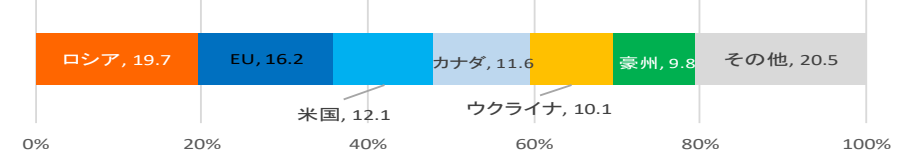
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	763.5	775.8	794.4	5.5	2.4
消 費 量	748.3	781.6	791.1	2.4	1.2
うち飼料用	139.3	158.4	160.7	2.0	1.5
輸 出 量	194.9	199.1	203.2	0.8	2.1
輸 入 量	187.9	192.8	199.5	0.4	3.5
期末在庫量	299.2	293.5	296.8	1.8	1.1
期末在庫率	40.0%	37.6%	37.5%	0.1	▲ 0.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (10 June 2021)

○ 2021/22年度の世界の小麦の生産量(794.4百万トン)（単位：％）



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸出量(203.2百万トン)



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸入量(199.5百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測から 0.7 百万トン上方修正され、前年度に比べ 4.0%増の 51.7 百万トンの見込み。

同「Wheat Outlook」及び「Crop Production」(2021.6)によれば、4 月中旬に寒波に見舞われた主要産地のカンザス州等での天候回復により、同年度の米国冬小麦の単収は、前月(3.51 トン/ヘクタール)から上昇し 3.58 トン/ヘクタールとなる見込み。このため冬小麦生産量は、35.6 百万トンと前年度(31.9 百万トン)を 12%上回る見込み。

品種別の生産量は、ハード・レッド・ウインター(HRW)が前月に比べ 6 %増の 21.0 百万トン、ソフト・レッド・ウインターが同 1%増の 9.1 百万トン。一方、干ばつが継続しているプレーンズ北部等の地域で主に栽培されているホワイト小麦は、前月より 8%減の 5.5 百万トンとなった。

同「Crop Progress」(2021.6.21)によれば、6 月 20 日時点の冬小麦の出穂進捗率(主要生産 18 州)は 96 %と、前年度同期の 95%を上回り、5 年平均並となっている。また、収穫進捗率は 17%と前年度の 27%、5 年平均の 26%を下回っている。作柄評価は、良～やや良が前週より 1 ポイント高い 49%と、前年同期の 52 %を下回っている。

一方、春小麦は、出穂進捗率(主要 6 州)が 27%と前年度同期の 11%、5 年平均の 18%を上回っている。作柄評価は、良～やや良が前週より 10 ポイント低い 27%となり、前年度同期の 75%を大きく下回っている。上記作柄評価は、干ばつが継続しているプレーンズ北部のサウスダコタ州、ノースダコタ州が特に低く、それぞれ 5%、19%。

【貿易情報・その他】USDA よれば、2021/22 年度の輸出量は前月からの変更はなく 24.5 百万トンの見込み。期末在庫量は、生産量が上方修正されたものの、期首在庫量の下方修正と飼料用消費の上方修正から、前月から 0.1 百万トン下方修正され、前年度(23.2 百万トン)を下回る 21.0 百万トンとなり、2015/16 年度以降最低の見込み。また、期末在庫率も 36.6%と前年度(40.4%)を下回り、2014/15 年度以降最低の見込み。

小麦－米国(冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割)

(単位: 百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	52.6	49.7	51.7	0.7	4.0
消 費 量	30.6	30.6	32.8	0.3	7.4
うち飼料用	2.8	2.7	4.9	0.3	80.1
輸 出 量	26.3	26.8	24.5	-	▲ 8.7
輸 入 量	2.9	2.7	3.4	-	25.0
期末在庫量	28.0	23.2	21.0	▲ 0.1	▲ 9.6
期末在庫率	49.2%	40.4%	36.6%	▲ 0.4	▲ 3.8

(参考)

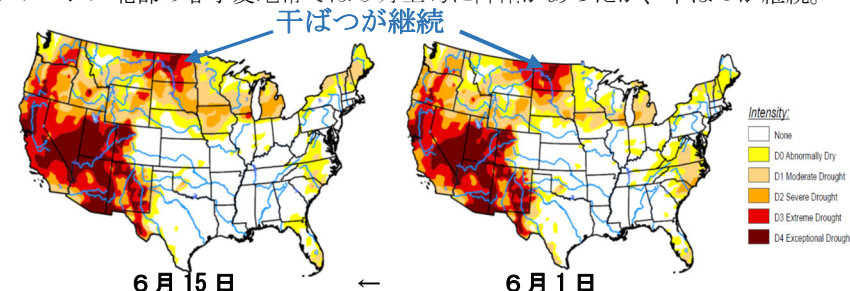
収穫面積(百万ha)	15.13	14.87	15.15	-	1.9
単収(t/ha)	3.47	3.34	3.41	0.05	2.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

「World Agricultural Production」(10 June 2021)

図 米国小麦生産地帯の干ばつ状況(6月15日及び6月1日)

プレーンズ北部の春小麦地帯では 6 月上旬に降雨があったが、干ばつが継続。



資料: USDA「The U.S Drought Monitor」をもとに農林水産省で作成

表 米国の小麦輸出先国別輸出量(輸出検証高)

(万トン)

2021年5月			2021年1月～5月			2020年1月～12月		
国名	検証高	シェア(%)	国名	累積検証高	シェア(%)	国名	累積検証高	シェア(%)
フィリピン	35.9	18.5	メキシコ	159.0	14.9	フィリピン	329.8	13.0
メキシコ	29.7	15.3	中国	146.5	13.8	メキシコ	287.3	11.3
中国	19.5	10.1	フィリピン	122.4	11.5	日本	255.6	10.1
日本	14.7	7.6	韓国	100.0	9.4	中国	210.3	8.3
韓国	11.5	5.9	日本	97.5	9.2	韓国	140.2	5.5
その他	82.5	42.6	その他	438.9	41.2	その他	1,311.9	51.7
合計	193.8	100.0	合計	1064.2	100.0	合計	2,535.2	100.0

注1. 5月の輸出検証高は、5月13、20、27、6月3日の合計値

注2. 2021年累積輸出検証高は、2021年1月7日～6月3日の合計

注3. 2020年の累積輸出検証高は、2020年1月2日～12月31日の合計

資料: USDA Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals (2021年6月11日)より作成。

＜ カナダ ＞

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook For Principal Field Crops」(2021.6.18)によれば、2021/22 年度の生産量は、前年度に比べ 11.7 %減少の 31.1 百万トンの見込み。品種別には、デュラム小麦が、同 8.5%減少し 6.0 百万トン、普通小麦が、同 12.5%減少し 25.1 百万トンの見込み。

各州政府の報告によれば、作付進捗率はアルバータ州で春小麦が 99.7%、デュラム小麦が 99.8%(6 月 1 日現在)、マニトバ州で穀物全体が 99%(6 月第 2 週現在)、サスカチュワン州で穀物全体が 99%(6 月 7 日現在)となり、作付はほぼ終了している。

また、サスカチュワン州では、高温、乾燥天候となったものの、5 月 31 日現在、デュラム小麦の 73%が良～やや良の生育状況となっている。

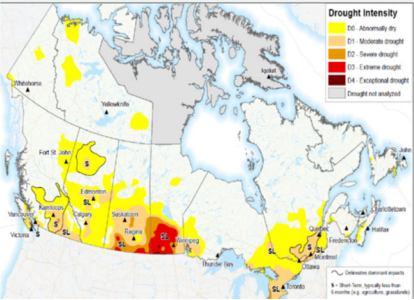
AAFC によれば、平原三州の春小麦の 67%が良～やや良の生育状況となっているが、特にマニトバ州、サスカチュワン州南部では乾燥天候が継続しており、土壌水分不足が懸念されている。さらに、長期予報では高温・乾燥天候になると予測されており、生産量と品質への影響が生じる可能性がある。また、デュラム小麦も平原三州で乾燥天候が続けばその影響を受けると見られている。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2021/22 年度の輸出量は、前年度に比べ 18.4%減の 21.9 百万トンの見込み。内訳は、デュラム小麦が、輸出余力の減少から前年度に比

べ 17.2%減の 4.8 百万トン、普通小麦は、同 18.8%減の 17.1 百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2021 年 4 月の輸出量は、普通小麦が 185.0 万トン、デュラム小麦が 77.3 万トン。輸出先国は、普通小麦が、中国(17.5%)、インドネシア(12.3%)、デュラム小麦はアルジェリア(31.7%)、イタリア(21.6%)の順。2020/21 年度(2020 年 8 月～2021 年 7 月)の 8 月から 4 月までの輸出量は普通小麦が 1,495.1 万トン、デュラム小麦が 482.2 万トン。

図 カナダの平原三州の干ばつ状況



資料：AAFC「Canadian Drought Monitor」(2021.5.31)

小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はAAFC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.7	35.2	32.0	(31.1)	－	▲ 9.0
消費量	9.3	9.9	9.2	(8.9)	－	▲ 7.1
うち飼料用	4.2	4.7	4.0	(4.5)	－	▲ 14.9
輸 出 量	24.6	27.5	23.5	(21.9)	－	▲ 14.5
輸 入 量	0.7	0.6	0.7	(0.1)	－	27.3
期末在庫量	5.5	3.8	3.8	(5.1)	－	－
期末在庫率	16.2%	10.2%	11.7%	(16.4%)	－	1.5
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.66	10.02	9.20	(9.22)	－	▲ 8.2
単収(t/ha)	3.38	3.51	3.48	(3.37)	－	▲ 0.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 June 2021)

AAFC「Outlook For Principal Field Crops」(18 June 2021)

表 カナダ産普通小麦及びデュラム小麦の輸出相手国(輸出検証高、シェア)
2021年4月及び2020/21年度(2020年8月～2021年 7月)の8月～4月

＜普通小麦＞

	2021年4月			2020年8月～2021年4月		
	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)
1	中国	32.4	17.5	中国	219.0	14.6
2	インドネシア	22.7	12.3	インドネシア	160.9	10.8
3	バングラデシュ	21.8	11.8	バングラデシュ	134.2	9.0
4	コロンビア	15.9	8.6	日本	124.4	8.3
5	ペルー	11.9	6.4	コロンビア	117.7	7.9
6	その他	80.4	43.4	その他	738.9	49.4
計		185.0	100.0	計	1495.1	100.0

＜デュラム小麦＞

	2021年4月			2020年8月～2021年4月		
	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)
1	アルジェリア	24.5	31.7	イタリア	130.9	27.1
2	イタリア	16.7	21.6	モロッコ	93.4	19.4
3	モロッコ	12.5	16.1	アルジェリア	81.6	16.9
4	ベルギー	9.8	12.6	チュニジア	31.6	6.5
5	日本	2.7	3.4	ベルギー	24.2	5.0
6	その他	11.2	14.5	その他	120.5	25.0
計		77.3	100.0	計	482.2	100.0

注1: Canadian Grain Commissionが認可したエレベーターから輸出された小麦(Licensed)のみのデータ。

注2: 普通小麦の品種はNo.1-3 Canada Western Red Spring No.1 Canada Western Red Winter
No.2 Canada Eastern Red Spring No.2 Canada Eastern Oter, デュラムはCanada Western Amber Durum Others
資料: Canadian Grain Commission「Export of Canadian Grain and Wheat Flour」をもとに作成。

< 豪州 >

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度に比べ18.2%減少の27.0百万トンの見込み。また、豪州農業資源経済科学局 ABARES「Australian Crop Report」(2021.6.8)によれば、2021/22年度は、作付け時の良好な天候と国際価格の上昇により作付面積が前年度(12.99百万ヘクタール)より1%増加し13.06百万ヘクタールとなるものの、単収が2.57トン/ヘクタールから2.13トン/ヘクタールに低下する見込み。このため、生産量は前年度から17%減少し27.8百万トンとなるものの、2020/21年度までの10年平均を上回る見込み。

主要生産州別の生産量は、西オーストラリア州(WA州)では、面積と単収の増加から、前年度から5%増加し、過去5年平均を17%上回る1.0百万トンの見込み。作付け時の理想的な天候により土壌水分が例年を大きく上回った。同州の多くの生産地域の土壌は東部の州に比べ保水力が低い傾向があり、今後、適時で十分な降雨が必要。3ヶ月予報によれば、今後の降水量は平均を下回る可能性があるものの、ABARESは極端に平均を下回らない限り、生産量は達せられると見ている。ニューサウスウェールズ州(NSW州)では、面積が減少し単収が大きく低下することから、生産量は前年度より3%減少するものの、過去5年平均を42%上回る8.9百万トンの見込み。同州の作付け時の天候は良好であったものの、4～5月の降水量が特に南部で下回ったため、表層の土壌水分が低下している。また同州では、ネズミが大量に発生し、駆除代等のコスト増加の問題が生じた。現在は多くの地域でネズミの数はピークに達している模様。南オーストラリア州(SA州)では、面積は変わらないものの単収が低下することから、前年度より15%減少し、過去5年平均を1%下回る4.1百万トンとなる見込み。同州では、2～4月の降水量が殆どの地域で平均以下となり、4月下旬時点の土壌水分は平均を大きく下回ったが、今後の降水量は平均を上回る見通し。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、20.0百万トン。2021年4月の輸出国先は、インドネシア、ベトナムの順。

小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	14.5	33.0	27.0 (29.3)	-	▲ 18.2
消費量	8.0	8.5	8.0 (7.8)	-	▲ 5.9
うち飼料用	4.5	5.0	4.5 (4.2)	-	▲ 10.0
輸 出 量	9.1	22.0	20.0 (19.4)	-	▲ 9.1
輸 入 量	0.9	0.2	0.2 (0.3)	-	-
期末在庫量	2.7	5.4	4.6 (5.9)	▲ 0.2	▲ 14.9
期末在庫率	15.6%	17.6%	16.4% (21.6%)	▲ 0.8	▲ 1.3

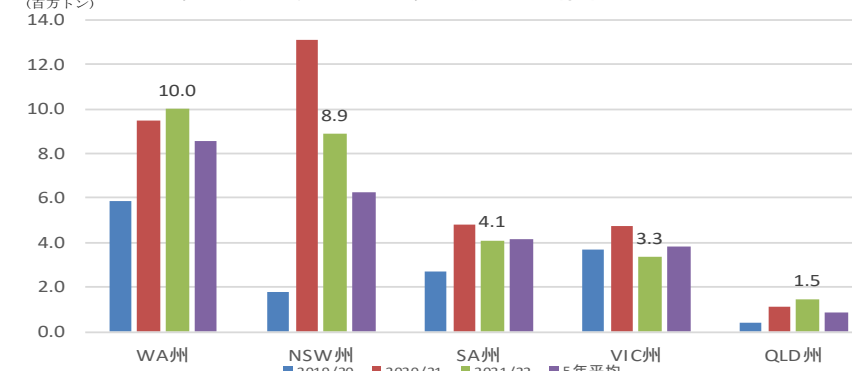
(参考)

収穫面積(百万ha)※	9.86	13.00	13.20 (13.0)	-	1.5
単収(t/ha)	1.47	2.54	2.05 (2.03)	-	▲ 19.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 June 2021)

IGC 「Grain Market Report」(27 May 2021)

図 小麦生産主要州の小麦生産量の推移及び過去5年平均



資料: 豪州農業資源経済科学局 (ABARES)「Crop Report」(2021.6.8)をもとに農林水産省で作成

WA州:西オーストラリア州、NSW州: ニューサウスウェールズ 州、SA州:南オーストラリア州
VIC州:ビクトリア州 QLD州:クイーンズランド州

表 豪州の小麦輸出先国と輸出量、シェア(2021年4月)

輸出先国	インドネシア	ベトナム	タイ	中国	日本	その他	合計
輸出量 (万トン)	73.5	24.0	23.1	17.4	14.2	97.3	249.4
シェア (%)	29.5	9.6	9.3	7.0	5.7	39.0	100

資料: 豪州統計局のデータをもとに農林水産省で作成

< EU >

【生育・生産状況】EU委員会「EU Cereals Production Area and Yield」(2021.5.27)によれば、2021/22年度の生産量(EU27)は、前月予測から1.8百万トン上方修正され、135.0百万トンの見込み。また、農業市場情報システム(AMIS)「Market Database Supply and Demand Overview」(2021.6.3)によれば、英国の2021/22年度の普通小麦の生産量は14.5百万トンの見込み。品種別の生産量(EU27)は、普通小麦が前月に比べ、スロバキア、スウェーデン等で下方修正されたものの、フランス、ルーマニア等で上方修正され、127.2百万トンの見込み。一方、デュラム小麦は、ギリシャ等で下方修正されたものの、イタリア等で上方修正され、7.76百万トンの見込み。

各国の生育状況は、5月中旬以降、フランス、ドイツ、英国等の欧州北西部で断続的な降雨となり、5月まで継続していた作物への乾燥の影響懸念は解消した。また、4月から5月下旬まで気温が平年を下回ったため、冬小麦の生育が1～2週間遅れていたが、6月以降の気温上昇により、小麦の生育は順調となった。スペイン、ポルトガルでも、気温は平年より高かったものの、生育が進んだ。

「FranceAgriMer」(2021.6.7)によれば、主要生産国であるフランスの生育段階は、全体の96%で出穂期を迎えているが、前年度に比べて若干遅れている。また、生育状況の良～やや良の割合は、普通小麦が前年度同期の56%を上回る80%、デュラム小麦が同63%を上回る68%であり、前年度に比べ生育状況は良好である。

【貿易情報・その他】USDA「Grain:World Markets and Trade」(2021.6.10)によれば、EUの輸出価格は、2021/22年度が豊作と見込まれることから、298ドル/トン(2021年5月7日)から291ドル/トン(同年6月8日)へ下落した。また、2021/22年度の同年度の飼料用需要は前月予測から1.0百万トン上方修正され、52.7百万トン。輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より10.5%増加の33.6百万トンの見込み。

EU委員会によれば、2020年7月～2021年3月までの輸出量は、普通小麦が前年同期を22.3%下回る2,086.3万トン、デュラム小麦が同47.6%下回る49.4万トン。

小麦－EU（冬小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	154.3	135.6	151.6	(123.0)	3.5	11.8
消費量	123.3	117.6	123.4	(104.4)	1.0	4.9
うち飼料用	53.3	48.1	52.7	(41.0)	1.0	9.6
輸 出 量	41.4	30.4	33.6	(26.2)	▲ 0.0	10.5
輸 入 量	7.3	8.4	8.2	(6.4)	▲ 0.2	▲ 2.4
期末在庫量	14.6	10.7	13.5	(10.6)	2.3	26.7
期末在庫率	8.9%	7.2%	8.6%	(8.1%)	▲ 0.1	1.4

(参考)

収穫面積(百万ha)	26.16	24.47	25.63	(22.76)	-	4.7
単収(t/ha)	5.90	5.54	5.91	(5.40)	0.15	6.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 June 2021) 表内のデータはEU27+英国
IGC 「Grain Market Report」(27 May 2021) ()内はEU27ヶ国のデータ

写真 フランス(左側)イル・ド・フランス圏及びドイツ(右側)バイエルン州の小麦圃場



開花期の後期を迎えた小麦。ここ数年で最も良好な生育状況で、収穫予定は7月下旬～8月上旬。(2021.6.10)



天候の影響により、平年より遅れているものの、生育状況は良好。収穫予定は8月半ば。(2021.6.14)

表 EUの普通小麦輸出先国

2019年3月			2020年3月			2021年3月		
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
エジプト	48.59	18.3%	モロッコ	54.22	10.7%	アルジェリア	72.28	28.5%
アルジェリア	44.60	16.8%	アルジェリア	45.95	9.1%	モロッコ	55.47	21.8%
モロッコ	38.63	14.6%	ナイジェリア	45.70	9.0%	ナイジェリア	19.80	7.8%
スーダン	13.28	5.0%	エジプト	43.65	8.6%	チュニジア	13.17	5.2%
ヨルダン	10.50	4.0%	イラン	42.62	8.4%	リビア	7.67	3.0%
リビア	10.34	3.9%	中国	39.92	7.9%	イラン	6.93	2.7%
その他	99.17	37.4%	その他	234.30	46.3%	その他	78.55	30.9%
総計	265.11	100%	総計	506.38	100%	総計	253.87	100%

資料：欧州委員会「EU Cereals export and import」(2021.5.19)をもとに農林水産省で作成

< 中国 >

【生育・生産状況】中国糧油情報センター(2021.6.4)によれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 1.6%増の 136.4 百万トン。品種別には、冬小麦は前年度比 1.4%増の 128.6 百万トン、春小麦は同 4.9%増の 7.8 百万トン。

同年度の冬小麦は、5月の天候が良好で大部分の地域で登熟が進み、同月下旬には一部地域で収穫が開始された。同年度は生育期間を通しての天候条件が良好で、作柄は例年及び前年度より良好で、豊作となる見通し。

中国中央气象台(2021.6.2、6.14)によれば、作柄は、冬小麦の一、二類苗(※)の比率が26%、73%と、前年度同期の23%、74%に比べ、一類苗は3ポイント上昇し、二類苗は1ポイント低下した。一方、春小麦の一、二類苗の比率はそれぞれ40%、60%である。

冬小麦の収穫状況は、収穫面積が17.4百万ヘクタールに達した。地域別には安徽省ではすでに収穫は終了し、河南省では終盤となった。中国全土の収穫の進捗は、前年度同期並かやや早くなっている。春小麦の生育状況は、青海省、黒竜江省等で分けつ、穂孕み期となり、一部の生産地域で開花期に入っている。

【貿易情報・その他】中国農産品供需形勢分析月報(4月)によれば、最低買付価格制度に基づく買入小麦の競売と中央・地方政府の備蓄在庫の入れ替えに伴う小麦の放出や、穀物販売業者の新穀の出回り前の出荷で市場供給が十分となったことや、製粉企業の小麦買付量の減少、国内とうもろこし価格下落による飼料製造企業の需要減少から、普通小麦の国内価格は 500g 当たり 1.27 元 (2,540 元/トン) と対前年同月比 3.3%上昇も、ほぼ横ばいとなった。

中国糧油情報センターによれば、2021/22 年度の消費量、輸入量とも前月予測からの変更はなく、それぞれ対前年度比 1.17%減少の 145.5 百万トン(飼料用は同 5.26%減少の 36.0 百万トン)、同 20.0%減少の 8.0 百万トンの見込み。中国海関統計によれば、2021 年 1 月から 4 月の小麦輸入量は前年同時期の 151.5%増の 380.7 万トンとなった。輸入先国は、カナダ(28.6%)、豪州(27.4%)、米国(22.6%)、フランス(17.2%)の順となっている。

小麦—中国(冬小麦を主に栽培)

(単位: 百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	133.6	134.3	136.0 (130.2)	-	1.3	
消費量	126.0	150.0	148.0 (132.0)	-	▲ 1.3	
うち飼料用	19.0	40.0	35.0 (21.0)	-	▲ 12.5	
輸 出 量	1.1	0.8	1.0 (1.3)	-	25.0	
輸 入 量	5.4	10.5	10.0 (7.9)	-	▲ 4.8	
期末在庫量	151.7	145.6	142.6 (139.8)	0.2	▲ 2.1	
期末在庫率	119.4%	96.6%	95.7% (104.9%)	0.1	▲ 0.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	23.73	23.38	23.00 (23.8)	-	▲ 1.6	
単収(t/ha)	5.63	5.74	5.91 (5.71)	-	3.0	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 June 2021)
IGC 「Grain Market Report」(27 May 2021)

図 2020年、2021年の中国の小麦月別輸入量

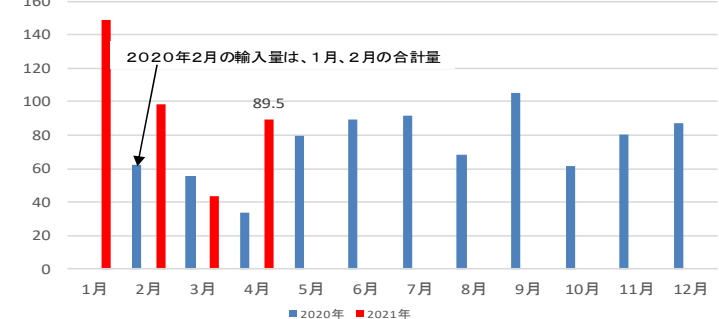


表 中国の小麦輸入量、輸入先国シェアの推移

	国名	2021年1月～2021年4月		2020年1月～2020年12月	
		輸入量 (万吨)	輸入量シェア (%)	輸入量 (万吨)	輸入量シェア (%)
1	カナダ	108.9	28.6	238.3	29.2
2	オーストラリア	104.5	27.4	229.7	28.2
3	米国	86.2	22.6	178.4	21.9
4	フランス	65.4	17.2	109.0	13.4
5	カザフスタン	7.5	2.0	33.3	4.1
6	リトアニア	6.6	1.7	19.2	2.4
7	ロシア	1.6	0.4	7.2	0.9
	計	380.7	100.0	815.2	100.0

出典: 中国海関統計(2021.5.20)をもとに農林水産省で作成

※一類苗:生育が正常な苗、二類苗:通常の苗よりやや小さく弱まっている苗

< ロシア >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2021/22年度の生産量は、前月予測に比べ1.0百万トン上方修正され、前年度に比べ0.8%増加の86.0百万トン(史上最高)の見込み。品種別の内訳は、冬小麦は降雨による単収の上昇から、前月予測に比べ0.5百万トン上方修正され、64.5百万トン。春小麦は収穫面積の増加から、同0.5百万トン上方修正され、21.5百万トンの見込み。冬小麦は、例年通りに作付は終了したものの、前年秋の降水量不足が定着に影響を及ぼした。その後、主要産地の南連邦管区、北カフカス連邦管区では春の降雨で十分な土壌水分量となった。一方、春小麦は、作付が主要産地で降雨により遅れたものの、遅れを取り戻し例年通りの時期にほぼ終了。

なお、ロシア農業省によれば、2021/22年度(6月8日時点)は81.0百万トンの見込み。また、同省の速報値によれば、春小麦の作付面積は、作付予定面積を2.8%上回る13.03百万ヘクタール(6月11日現在)となったが、最終的には13.20百万ヘクタールを上回る可能性がある。

ロシア気象センターによれば、2021年5月は、ロシア・ヨーロッパ部の北部及び南部地域とも、冬小麦の作柄評価は概ね良好及び並。また、北部では茎立ち期、南部では茎立ち期から出穂期初期を迎えている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、40.0百万トンと世界第一位の見込み。一方、2020/21年度の輸出量は、4～5月の輸出ペースの低下から、前月予測から1.0百万トン下方修正され、38.5百万トンの見込み。なお、USDAは、ロシアの関税方式が可変輸出関税方式に変わり実質の関税が低下するとの見込みから、6月の輸出量は増加すると見ている。

ロシア農業省によれば、5月の穀物輸出量(速報値)は過去最低水準の162.9万トンで小麦は34.6万トン。一方、前年7月からの2020/21年度(2020年7月～2021年4月)の小麦輸出量は、3,535万トンと昨年度同時期に比べ0.7%増加している。なお、現地情報会社によれば、トルコは干ばつによる生産量の減少でロシア産小麦の輸入量を増加すると見られている。

小麦－ロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	73.6	85.4	86.0 (83.5)	1.0	0.8
消費量	34.5	38.5	43.0 (42.9)	0.5	11.7
うち飼料用	17.0	19.0	19.5 (18.7)	0.5	2.6
輸 出 量	34.5	38.5	40.0 (38.9)	-	3.9
輸 入 量	0.3	0.5	0.5 (0.3)	-	11.1
期末在庫量	7.2	12.0	15.5 (11.0)	0.5	29.1
期末在庫率	10.5%	15.6%	18.7% (13.4%)	0.4	3.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	27.31	28.68	29.30 (28.5)	0.30	2.2
単収(t/ha)	2.70	2.98	2.94 (2.78)	0.01	▲ 1.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 June 2021)
IGC 「Grain Market Report」(27 May 2021)

図 ロシアの小麦輸出量の推移(月別)

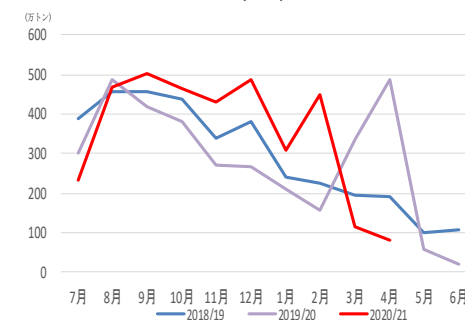


表 ロシアの可変輸出関税額(小麦)

期間	関税率
2021.06.02-06.08	28.1ドル/トン
2021.06.09-06.15	29.4ドル/トン
2021.06.16-06.23	33.3ドル/トン

輸出通関の前週の市況(ノヴォロシイスクの平均FOB価格)が200ドル/トンを超えた場合に、超えた価格に70%の関税がかかる。

表 ロシアの小麦輸出先国(2021年4月、2020年7月～2021年4月)

	2021年4月			2020年7月～2021年4月		
	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
1	不明	23.2	29.0	エジプト	791.2	22.4
2	エジプト	18.7	23.4	トルコ	646.7	18.3
3	トルコ	7.3	9.1	バングラデシュ	173.4	4.9
4	イスラエル	7.0	8.8	パキスタン	157.0	4.4
5	バングラデシュ	5.3	6.6	アゼルバイジャン	138.0	3.9
6	その他	18.4	23.0	その他	1629.0	46.1
計		79.9	100.0		3535.3	100.0

資料：ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成

(注)2020/21年度は、2020年7月から2021年6月

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 —

・前月から変更なし。史上最高の見込み。

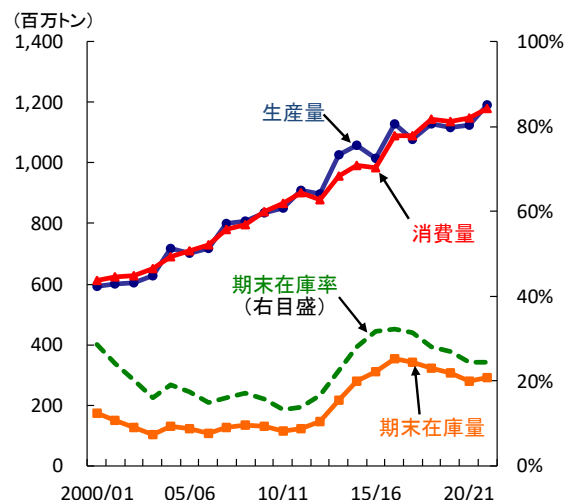
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・前月からわずかに下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 —

・前月から変更なし。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2021. 6. 10)をもとに農林水産省にて作成

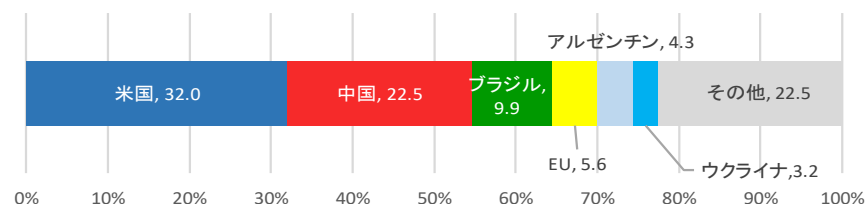
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

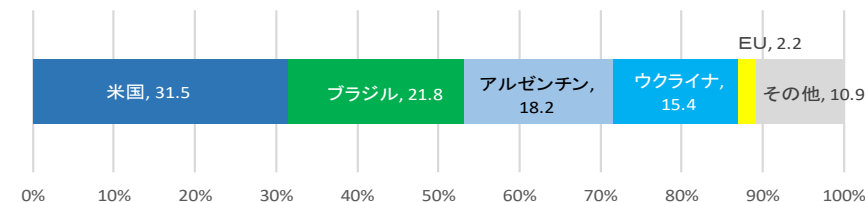
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	1,117.5	1,125.0	1,189.9	—	5.8
消 費 量	1,134.6	1,149.9	1,181.0	▲ 0.0	2.7
うち飼料用	715.7	728.8	748.3	▲ 0.1	2.7
輸 出 量	172.5	187.0	197.5	—	5.6
輸 入 量	167.6	184.0	189.5	—	3.0
期末在庫量	305.5	280.6	289.4	▲ 2.9	3.1
期末在庫率	26.9%	24.4%	24.5%	▲ 0.2	0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 June 2021)

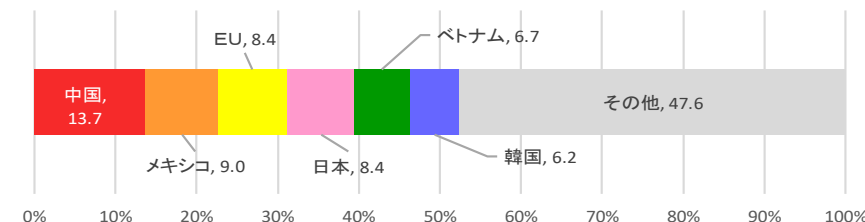
○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,189.9百万トン) (単位：%)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸出量(197.5百万トン)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸入量(189.5百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び長期的な傾向単収の増加により前年度より 5.7%増の 380.8 百万トンとなり、史上最高の見込み。「Crop Progress」(2021.6.14)によれば、主要 18 州における発芽率は 96%と前年度同期 (94%) 及び過去 5 年平均 (91%) より進んでいる。また、「Crop Progress」(2021.6.21)によれば、作柄評価は、コーンベルト北西部の高温乾燥の影響により、良からやや良が 65%と前年度同期 (72%) を下回っている。今後の高温乾燥の継続に注意が必要。

【需要動向】USDA によれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、国内のワクチン接種の進展に伴い、自動車を運転する機会が増加することで、燃料用エタノールの需要増からエタノール向け需要の増加により、前年度より 1.2%増の 312.8 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、主にアルゼンチン、ウクライナ等との激しい輸出競争により前年度より 14.0%減の 62.2 百万トンの見込み。

なお、USDA によれば、輸出検証高(2021年1月7日～6月3日)は、37.3 百万トンであり、内訳は中国 (10.0 百万トン)、メキシコ (6.8 百万トン)、日本 (6.7 百万トン)、韓国 (3.0 百万トン) の順である。

USDA によれば、2021/22年度の期末在庫量は、前年度のエタノール向け需要及び輸出量の各 1.9 百万トンの上方修正により、前月予測から 3.8 百万トン下方修正されたものの、前年度より 22.6%増の 34.5 百万トンの見込み。しかし、期末在庫率は 9.2%で依然として低水準の見込み。

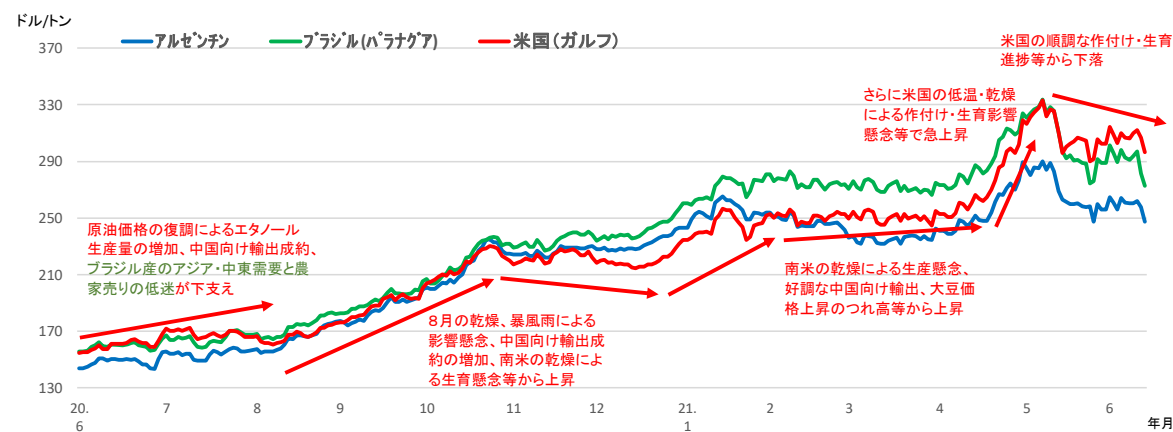
とうもろこしー米国

(単位: 百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	346.0	360.3	380.8	-	5.7
消費量	309.5	309.1	312.8	-	1.2
うち飼料用	149.8	144.8	144.8	-	-
エタノール用等	123.4	128.3	132.1	-	3.0
輸出量	45.2	72.4	62.2	-	▲ 14.0
輸入量	1.1	0.6	0.6	-	-
期末在庫量	48.8	28.1	34.5	▲ 3.8	22.6
期末在庫率	13.7%	7.4%	9.2%	▲ 1.0	1.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	32.92	33.37	33.79	-	1.3
単収(t/ha)	10.51	10.79	11.27	-	4.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 June 2021)

図: 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格 (FOB) の推移



資料: IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より19.8%増の118.0百万トンとなり、史上最高の見込み。

なお、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2021.6.10)によれば、2020/21年度の収穫終盤を迎えた夏とうもろこしの生産量は、乾燥による作付け遅延と生育期の乾燥の影響もあり、前年度比3.8%減の24.7百万トンの見込み。一方、大豆収穫後に作付けされ、現在生育中の冬とうもろこしの生産量は、4月～5月の南部の主産地での長引く乾燥天候による単収の下方修正により、前月予測から10.1百万トン下方修正され、前年度比6.8%減の71.7百万トンが見込まれる。合計では前年度比6.0%減の96.4百万トンの見込み。(P.21 大豆－ブラジルのクロップカレンダー参照)。

2020/21年度について、冬とうもろこしの主産地である中西部のマトグロッソ州では、6月19日現在で収穫率は4%で、過去5年平均(15%)より11ポイント遅れている。冬とうもろこしは例年7～9月に収穫されるが、大豆の収穫遅れに伴う作付けの遅れにより収穫作業も遅延が予想される。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加に伴い、前年度より5.8%増の73.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加により前年度より30.3%増の43.0百万トンの見込み。輸出シェアは世界第2位を維持。(右図参照)。一方、輸入量は1.7百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2021年1～5月の輸出量は3.6百万トンで、前年同期と比べ23%増となっている。内訳は、1位がエジプトで78万トン、2位がベトナムで52万トン、3位がイランで51万トンとなっている。

とうもろこし－ブラジル

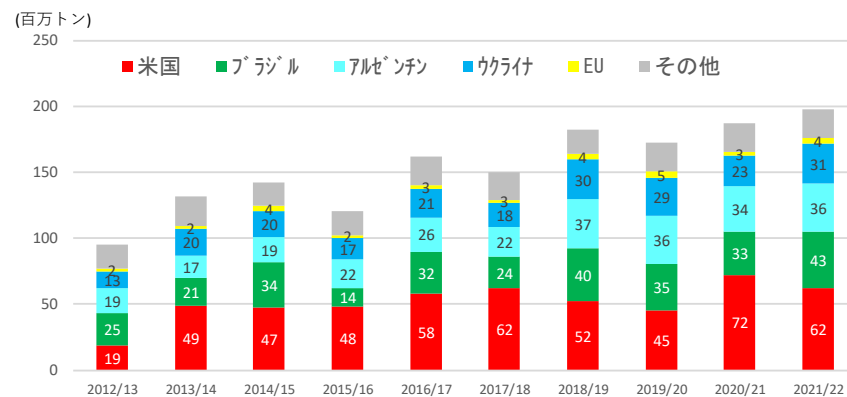
(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが3/4を占め、夏とうもろこしは1/4)

(単位: 百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	102.0	98.5	118.0	(117.4)	-	19.8
消 費 量	68.5	69.0	73.0	(76.2)	-	5.8
うち飼料用	58.5	59.0	62.0	(55.7)	-	5.1
輸 出 量	35.2	33.0	43.0	(40.0)	-	30.3
輸 入 量	1.7	3.5	1.7	(0.5)	-	▲ 51.4
期末在庫量	5.2	5.2	8.9	(6.2)	-	70.7
期末在庫率	5.0%	5.1%	7.7%	(5.3%)	-	2.6
(参考)						
収穫面積(百万ha)	18.50	19.88	20.80	(20.06)	-	4.6
単収(t/ha)	5.51	4.96	5.67	(5.85)	-	14.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 June 2021)
IGC 「Grain Market Report」(27 May 2021)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料: USDA 「PS&D」 (2021. 6. 10) のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より 8.5%増の 51.0 百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所（2021.6.17）によれば、2020/21 年度の収穫進捗率は 42%で、過去 5 年平均に比べ 8 ポイント遅れている。遅播きの地域で収穫が進み、コルドバ州、サンタフェ州では遅播きの単収が予想を上回り、生産量は 48.0 百万トンの見込み。

【需給状況】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度と同じ 14.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加等により前年度より 5.9%増の 36.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021 年 1～4 月の輸出量は 9.9 百万トンで、前年同期（11.4 百万トン）より 13.1%減。内訳は、1 位がベトナム 2.2 百万トン、2 位がエジプト 1.2 百万トン、3 位がアルジェリア 1.0 百万トン。なお、上流のブラジル南部の降雨不足により、パラナ川の水位が低下しており、アルゼンチンの穀物等の輸出の一部に支障が出る懸念がある。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げ、その後継続している。

とうもろこしーアルゼンチン

(単位：百万トン)

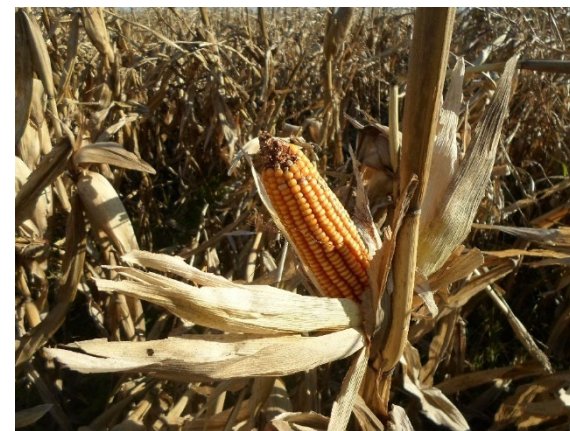
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	51.0	47.0	51.0 (59.3)	-	8.5
消 費 量	13.5	14.5	14.5 (22.2)	-	-
うち飼料用	9.5	10.5	10.5 (17.3)	-	-
輸 出 量	36.3	34.0	36.0 (35.5)	-	5.9
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	3.6	2.1	2.6 (6.4)	-	24.1
期末在庫率	7.3%	4.4%	5.2% (11.1%)	-	0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.30	6.10	6.25 (7.85)	-	2.5
単収(t/ha)	8.10	7.70	8.16 (7.56)	-	6.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 June 2021)
IGC 「Grain Market Report」(27 May 2021)

写真：北部サンタフェ州のとうもろこし圃場の風景

(5月27日撮影)

収穫可能な状態であるが、大豆の収穫を優先させるため、6月末から7月上旬に収穫見込み



< 中国 >

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、価格高騰と政府の増産政策による収穫面積の増加から前年度より 2.8%増の 268.0 百万トンの見込み。

中国中央气象台（2021.6.4）によれば、5月は産地の天候に恵まれ、播種・生育が順調で、6月上旬現在、東北地区の春とうもろこしは出苗期から三葉期に入っている。河南省等の夏とうもろこしは播種が始まっている。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、最近のASF発生の影響はあるものの、養豚数の回復とレストランの食品残渣や低品質の飼料でまかなっていた小規模畜産経営から大規模経営に移行したことからとうもろこしを主原料に切り替えたため、飼料用消費量が増加し、前年度より 1.7%増の 294.0 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度と同じ 26.0 百万トンで史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2021年1～4月の輸入量は 8.6 百万トンで、前年同期の 4.0 倍。内訳は、米国産 4.8 百万トン（56%）、ウクライナ産 3.7 百万トン（43%）で、前年同期はウクライナ産が 92%を占めたが、米国産の輸入が大幅に増加している。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報4月号」によると、4月の国内流通価格は、とうもろこしの春播種時期を迎え、黒龍江省等の東北地域の農家が露天保管していたとうもろこしはほぼ売り尽くしており、農家の手元にはわずかしが残っていないが、引き続き輸入とうもろこしが大量に入港、穀物販売業者による在庫の段階的な放出及びとうもろこし加工業者の手持ち在庫が十分であること等により、2,840 元/トンと引き続き下落した。一方、4月の外国産価格はブラジルの乾燥と米国の低温等で上昇したことから、内外価格差は縮小した。

とうもろこしー中国

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	260.8	260.7	268.0	(267.3)	-	2.8
消 費 量	278.0	289.0	294.0	(298.9)	-	1.7
うち飼料用	193.0	206.0	211.0	(194.0)	-	2.4
輸 出 量	0.0	0.0	0.0	(0.1)	-	-
輸 入 量	7.6	26.0	26.0	(19.0)	-	-
期末在庫量	200.5	198.2	198.2	(173.9)	-	▲ 0.0
期末在庫率	72.1%	68.6%	67.4%	(58.2%)	-	▲ 1.2

(参考)

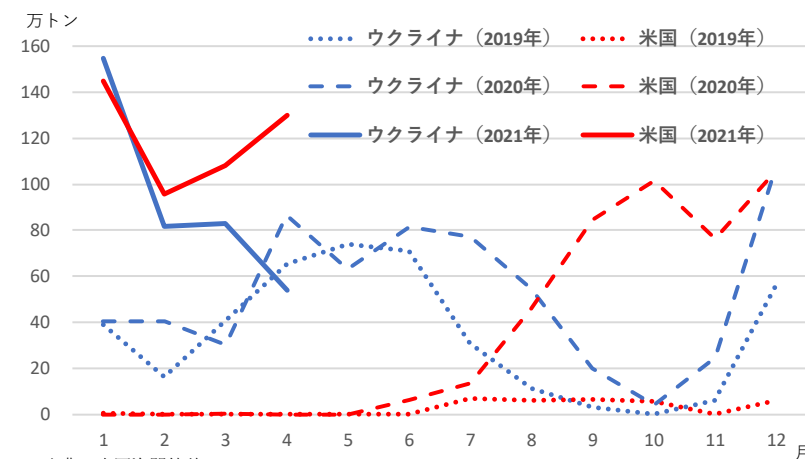
収穫面積(百万ha)	41.28	41.26	42.00	(42.00)	-	1.8
単収(t/ha)	6.32	6.32	6.38	(6.36)	-	0.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(10 June 2021)

IGC「Grain Market Report」(27 May 2021)

図：中国におけるウクライナ・米国産とうもろこしの輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分